

つり環境ビジョン事業を展開

今春4月から本格的に

日釣工 日釣振 釣り界こそぞって参加協力を

（一社）日本釣用品工業会（島野啓三会長）とる（2面の広告参照）。

（公財）日本釣振興会（高宮俊諦会長）では、「環境・美化」協力商品は全商品に適用する。

「つり環境ビジョン」のマークを釣用品にシール貼付か印刷で表示、国内販売の釣り関連商品への一律賦課金方式によって

（一社）日本釣用品工業会（島野啓三会長）とる（2面の広告参照）。
「環境・美化」協力商品は全商品に適用する。そして、優先3事業として、水辺の清掃、釣魚の放流、防波堤の開放を掲げ、そのうち日釣工のプロダイバーによる水中

事業費を調達し、それによつて釣場の保全、魚族資源の増殖、防波堤の開放など釣場の確保を優先3事業として推進。その「環境・美化」マークは当初、新製品から表示を始めたが、今年4月から

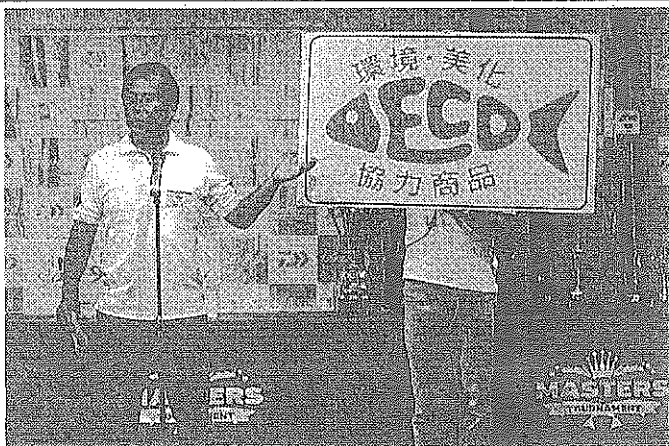
は全商品に適用する。そして、優先3事業として、水辺の清掃、釣魚の放流、防波堤の開放を掲げ、そのうち日釣工のプロダイバーによる水中

つり環境ビジョン説明会で日釣工・日釣振の首脳陣らが協力を呼びかけた



清掃は群馬県の榛名湖、茨城県の霞ヶ浦、愛知県の三河湖で実施。また、日釣振ではボランティアダイバーによる水中清掃を各地で実施している。調査型放流は（公財）神奈川県栽培漁業協会と契約してマタイの放流を実施。つり環境ビジョン委員会は中間育成の海上生簀への移送作業など視察した。これはマタイの受精卵を三崎・城ヶ島にある同栽培協会の施設へ

搬送、ふ化させて水槽で飼育してから小網代湾の生簀に移送して中間育成しているもので、その後三浦半島で実施した活魚船からの稚魚の放流にも立ち会った。日釣工と日釣振では、「つり環境ビジョン」の事業を通じて釣りの環境がよりよくなるよう今年も業界一丸となって事業を展開していく方針であり、今後とも更なる協力を呼びかけている。



釣り環境ビジョン事業を様々な機会に説明して協力を要請（グローブライドのダイワ結マスターズにて）

効率的な放流のため現場を視察、日釣振の水中清掃も各地で成果